新収蔵資料紹介 －前耕地観音堂の板碑と宝篋印塔－

難波田城資料館　和田晋治

平成19年12月に難波田城公園の南側に位置する前耕地観音堂より、板碑５基と宝篋印塔１基が難波田城資料館に寄贈された。

前耕地観音堂は、寛文２年（1672）銘の馬頭観音が納められている。寄贈された板碑と宝篋印塔は直接本堂に関係したものではなく、難波田城跡を含む周辺地域から出土し、奉納されたものと推察される。

これらのうち、板碑４基は「富士見市史資料編３」に収録されている。残る板碑１基と宝篋印塔については未報告の資料であることから、本誌上において報告することにした。

１　板碑（図１）

下半部を欠損する。残存部位の法量は高さ61.0ｃｍ、幅39.1ｃｍ、厚さ2.9ｃｍを測る。

主尊種子はバイ（薬師如来）で蓮座を伴う。バイを主尊とする板碑は、富士見市では４例目であり、貴重な資料である。

主尊種子の下には、中央に花瓶の花弁、その両脇に梵字が刻まれている。左側の梵字は一部しか残存していないため形状が不明である。右側の梵字は、下に蓮実と思われる楕円の彫刻があることから脇侍種子と考えられる。一般的に薬師三尊の場合、脇侍種子はア（日光菩薩）、シャ（月光菩薩）である。しかし、この梵字は、仏や菩薩を表すものには類例がなく、何を意味するものか特定できない。

年代については、紀年銘を欠損するため明確ではないが、法量と形態から14世紀中頃と思われる。

２　宝篋印塔（図２）

基礎にあたる部分で、全体の約1/2を欠損する。法量は、高さ16.2ｃｍ、上幅14.7ｃｍ、下幅20.7ｃｍを測る。被熱により、表面の一部が変色、剥落している。銘文は無い。

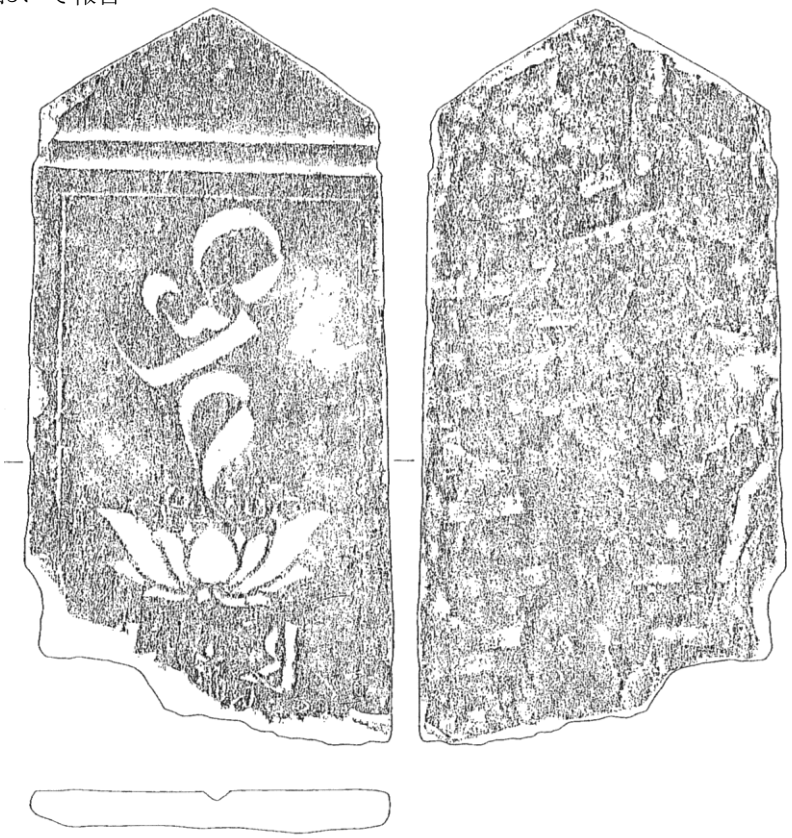

図１　板碑拓影図（１／６）

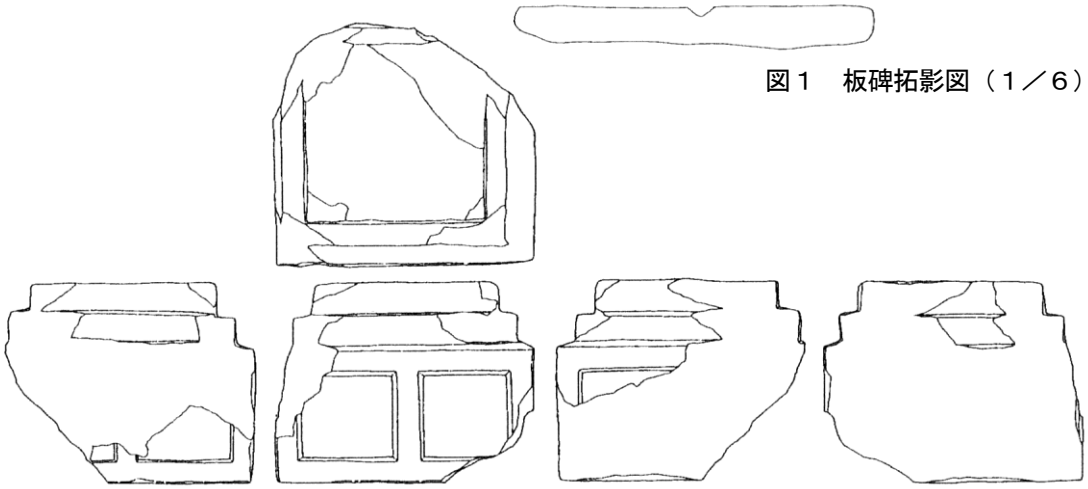

図２　宝篋印塔実測図（１／６）